

平成25年度学校評価実施報告書

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
1 わかりやすい授業に努め、基礎学力の定着を図る。 ＜教育課程＞	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程へスムーズに移行できるように努力するとともに、選択科目の特色を生かして、魅力ある教育課程の展開に努める。 ・魅力ある農業総合科への推進を図るとともに、各学科の特色ある教育課程の展開に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移行期における各学科授業展開のシミュレーションができたか。 ・魅力ある授業展開のための学習指導計画の検討・実施により、各科の特色づくりができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多展開やTTによる指導について教科で検討した。 ・農業科では教科の到達目標を話し合い、各科の特色づくりについて検討した。 ・農業総合科の授業展推進のため、農業3科の協力体制を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導計画を更に充実させ、授業展開の工夫を深めるとともに、教育課程の展開について話し合う。 ・農業総合科がスタートして2年目を迎えるので、さらに3科の連携を深める。 	(保護者) ・「興味や関心に応じた特色ある科目を学ぶことができた」という質問に91%の方が、「基礎基本を重視した応用力を高める授業を受けることができた」という質問に79%の方が満足していると回答している。 (学校評議員) ・時代の求める人材育成のため、「食」と「農」について学べる教育機関として、充実した施設や圃場を利用した実践的な学習が行われている。	(学校評価) ・授業改善の取組に一定の成果を得た。 (改善方策等) ・新教育課程の展開について、まだ工夫の余地があるので、さらに検討を進めていく。
2 生徒の基本的習慣の確立を図る。 ＜生徒指導・支援＞	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立を図り、授業や教科外活動に専念できるように指導する。 ・頭髪、服装指導、駐輪指導、巡回指導などを年間計画に位置づけ、課題がある生徒に対して家庭と連携し、継続して指導する。 ・交通安全教室などを開催して、交通ルールやマナーを指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の共通理解のもと、日常的に生徒の生活指導に取り組み、成果が認められたか。 ・家庭との連携を密に図ることができたか。 ・交通事故件数等が限りなくゼロに近づけられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・服装指導、校内巡回指導、交通安全指導等に全職員で取組み、一定の成果を得られた。 ・保護者への迅速な連絡を心掛け、家庭との信頼関係を構築することができた。 ・交通事故については昨年より件数が減少したが、さらに少なくなるよう生徒に働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かなり改善がみられるようになったが、今後も粘り強く指導していく。 ・自転車事故が起きやすい危険箇所を生徒に伝えていく。 	(保護者) ・「高校から保護者に対して積極的に情報が提供され学校の様子がよくわかった」という質問には73%「保護者として学校に話をしたり、生徒本人について相談ができた」という質問には77%の方が満足していると回答している。 (学校評議員) ・清掃活動や消灯、自転車利用時のマナーなどに改善が見られており、日々の生徒指導の成果が表れている。家庭との連絡を密に、特定の職員の負担とならないよう、学年全体、学校全体での継続した指導に期待したい。	(学校評価) ・職員全体で協力して取組み、指導にあたることができた。目標をほぼ達成することができた。 (改善方策等) ・粘り強く指導を行い、目標達成に向けて努力を続ける。
3 体験的学習を充実させ専門分野の基礎的・基本的な知識と技術の定着を図る。 ＜学習指導・授業改善＞	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある授業展開を行うために学習内容を精選し、補助教材を活用して、個別学習や補習を通して基礎的・基本的な知識、技術及び発展的な学力の充実を図る。 ・専門や共通教科の枠を超えて授業公開・授業見学を全校に拡大し、意見交換をしながら授業改善に取り組む。 ・今年度実施される日本学校農業クラブ連盟全国大会の成功へ向け、全校で協力し準備する。 ・検定・資格取得の積極的取組を推進し、授業に対する動機づけとするとともに、学校外学修、技能審査の単位認定に努める。 ・最先端技術や情報に触れる機会を積極的に取り入れ、専門的知識、技術の習得を図る。きめ細かな指導を行い、専門教科の内容を理解できるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価に基づき、授業等の教育活動全般の満足度の目標を80%以上とし、学習ニーズに応じた質の高い教育を行うことができたか。 ・授業見学、教科研修会を年間2回以上行い、教職員の授業研究を促進し、質の高い授業を提供することに努めたか。 ・全国大会の成功に向け、校内の協力体制が確立できたか。 ・各種検定、資格試験の合格者が前年度を上回るよう努力し、生徒一人ひとりに技能を着実に身に付ける取組ができたか。 ・専門的な知識の知見を広め、技術の習得を図ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価の結果、授業内容や授業の進め方、授業中の説明のしかた等の項目について、約80%の生徒が満足しているとの回答があった。 ・研究授業(延べ5回 保護者や中学生に向けた授業公開、「校内授業研修週間」を実施し、計画的に授業改善に取り組むことができた。 ・各種検定・資格試験の受験者が昨年より減少した。農業技術検定の2級合格者が昨年の1名から3名に増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善については、今年度一定の成果をあげることができたが、引き続き、研究授業や授業公開に計画的に取り組む。 ・特に安全技能講習会受講生が昨年に比べ50.6%と減少しているため、その意義を伝え、新たな資格に挑戦するよう呼びかけていく。 	(保護者) ・「学校の授業や学習活動が、本人の将来のために役に立つ」と答えた方が92%いるというアンケート結果を得ている。 (学校評議員) ・授業内容について、生徒から評価が得られており、生徒の主体性を重視しつつ、各教科で工夫・改善もすすめられている。 ・教員同士の情報交換の機会や場を増やして意思疎通をはかり、より良い連携・協力のもとに指導を進めたいという意見に大賛成である。 ・より良い教育効果を求める時に、現状で問題となるのは予算減と教員配置かと思われる。いろいろ不自由な中で学校としては本当によく頑張っているが、円滑な教育運営と負担軽減のためにも早急に善処の必要があると思われる。	(学校評価) ・授業改善の取組に一定の成果を得た。 ・一部の講習会を除き、受験者、受講者が減少傾向にある。 (改善方策等) ・実験実習や資格・検定の取得に向けて熱心に取り組む生徒がいる一方で、意欲の見られない生徒もいるので、生徒への働きかけを強化する。
4 キャリア教育の充実を図る。 ＜キャリア教育＞	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育実践プログラムへの取組等を通じて組織相互の共通理解を深化させる。 ・体育祭・学校祭などの学校行事や委員会活動等、教科外活動を通して、生徒の自主性・企画力・実行力の育成を図る。 ・部活動への加入率向上に努める。 ・学校農業クラブの活性化に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ体験者数が前年度を上回り、生徒一人ひとりの職業観・勤労観を育成する取組が推進できたか。 ・学校行事や委員会活動に生徒が主体的に取り組むことができたか。 ・部活動の加入率60%以上を目指し、学習とのバランスがとれた教育をすすめることができたか。 ・学校農業クラブの成果・実績等を前年度に比して上げることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ農家体験参加者は39名で昨年の61名に比べ減少した。 ・体育祭や学校祭に生徒が主体的に取り組むことができた。 ・部活動の加入率は目標を達成できていないが、部活動に取り組む生徒が増えてきている。 ・全国大会の運営に携わることで、生徒が農業クラブの活動に主体的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家体験やインターンシップの意義を理解してもらえるよう生徒に働きかけ、職業観や勤労観を育成できるような取組を推進する。 ・学校農業クラブ研究班の活性化のために、研究班の数を増やし研究班への全員加入を実現する。 	(保護者) ・「キャリア教育により生徒本人が成長できた」という質問に85%の方が「そう思う」と回答している。 (学校評議員) ・1年次から計画的にキャリア教育が行われており、職業観の醸成に寄与している。さらに生徒個々の適性を考えた進路指導や支援により、進学や就職における目標が概ね達成されているため、その手法も評価できる。	(学校評価) ・卒業時まで粘り強く指導し、ほとんどの生徒の進路を保証することができた。 ・行事や教科外活動に多くの生徒が参加し、生徒の意欲が向上している。 (改善方策等) ・生徒への働きかけを粘り強く行う。
5 保護者、地域と協働・連携し農業高校の特色や取り組みを通して、活力ある学校づくりを推進する。 ＜地域等連携＞	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携や普及活動、公開講座講師、学校生産物販売等、地域との交流・連携をさらに充実させ、「食・農の持つ多面的機能を社会において実践する力」の定着を図る。 ・地域農家ででの農業体験実習や実験・実習を通じた実践的な学習を行う。 ・「学校へ行こう週間」、学校説明会、一日体験入学、中学校訪問、学校祭など、あらゆる機会を活用して「開かれた高校づくり」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流活動への参加を年5回以上実施し、地域との協働により、実践力の定着を図ることができたか。 ・農業体験研修の参加人数、実験・実習の内容と実践的な学習の取組ができたか。 ・学校祭、一日体験入学等を活用して、前年度を上回る志願者数の増加を達成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の施設である貴峯荘との交流活動や公民館の行事への参加など地域交流活動へ5回以上参加した。 ・農業体験研修の参加者は昨年より増加した。 ・本校の志願者数は昨年より減少したが、多くの希望者を確保することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業クラブや生徒会で活動する生徒以外の参加を広く呼びかけたい。 ・近隣の小学生との連携について、さらに検討を進めたい。 	(学校評議員) ・「学校へ行こう週間」や平農祭の開催及び地域交流活動への参加など、地域に開かれた学校づくりに積極的に取り組んでいる。農作業体験など近隣の小学生との連携活動に生徒が参画できるとよいと思う。 ・最近は普通高校でも地域との連携活動が増えてきたが、農業高校ならではの特色を生かした連携活動を行っていることにより、地域や関係団体より感謝の言葉を聞くことも多い。今後とも恵継続していただきたいと思う。	(学校評価) ・農業高校の特色を生かし、地域と連携したさまざまな取り組みを通して、活力あう学校づくりを行うことができた。 (改善方策等) ・地域との協働を推進する。
6 地域から信頼される学校づくりに努める。 ＜学校運営・学校管理＞	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、学年、担任間の連絡を密にするとともに、保護者への迅速な連絡、家庭との協力体制を確固たるものにし、きめ細かい指導体制作りを行う。 ・安全な実験・実習体制、校務に係わる各種マニュアル作りと点検体制、防災教育、情報セキュリティ等事故防止に努める。 ・全国農業校長会のアクションプランのもとに、学校独自のスクールアクションプランを策定し、実現に向けた取組に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との協力体制ができたか。 ・教職員の不祥事ゼロを目指し、有効な事故防止研修会が年間を通じて実施できたか。 ・学校独自のスクールアクションプランを策定し、実現に向けた取組が図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災活動マニュアルを見直し、火災発生時の防災訓練やシェイクアウトを含めた実効的な訓練を3回実施できた。 ・不祥事・事故防止への意識を高めることができた。 ・スクールアクションプランを策定することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯連絡網を活用をさらに工夫し、家庭との連絡体制を密にとれるようにしていく。 ・今後も研修会等を通じ、事故防止や不祥事防止への意識を高めていく。 ・スクールアクションプランに沿った活動を継続する。 	(学校評議員) ・予算削減の中で学校運営は厳しさが増えていると思われるが、生徒の安全に係る部分は強く要望し、確保してほしい。 ・生徒の事故防止のために、日常隠れている部分について、早期に発見し、解決していく対策が肝要である。	(学校評価) ・研修の成果があらわれ、目標を達成することができた。 (改善方策等) ・今後も職員全体の協力体制を構築し、目標達成に努力する。